

医療経営 —看護の現場力と病院経営—
-----------------------

## 看護の現場力を刺激する3つの戦略

勝原裕美子 聖隷浜松病院 副院長・総看護部長

### 1. 現場からみた現場力、新任副院長がみた現場力

ある価値観を持って行動を起こしたとしよう。それが一定の成果を上げると、またやってみようということになる。それが再び一定の成果を上げると、さらなる反復が行われ、やがてこのやり方はいいことなのだ周囲に広まり定着していく。時代や世の中のニーズが変わっても、それが成果を上げ続ける限り、「力」となる。だが、これだけだと自画自賛に終わりがねない。新しいやり方にチャレンジすることが少なくなったり、他との比較における自らの位置づけを確認することがなされなくなったりするからだ。

新しく組織に入ると、その組織の文化が見える。今ある組織の力に対して過小評価している点、過大評価している点が多少なりとも客観視できる。戦略を考える上では、その評価をなるだけ正確に行う必要がある。

### 2. 戦略はビジョンに基づく

なんのために副院長をするのか。副院長として何ができるのか。“私”が副院長である必要がどこにあるのか。

就任までの間、非常に難しい問いかけを自分に課してきた。しかし、自分がやりたいことは、役割やポジションが変わっても変わらないのだと腹をくくったら楽になった。ずっと変わらない体の中心部分。それは「看護の価値を社会の価値へ」。このことのために、「可視化」を徹底的に行う。看護を可視化するための戦略は、①現場力を最大限に活かし、②“私”を組織の資源として投入することを通して自ずと見えた。

#### ★戦略1：学究化

看護の実践知と技を積み重ね、実践の現場から看護学に貢献する

#### ★戦略2：国際化

日本の看護が国際的にもハイレベルであることを証明する

#### ★戦略3：起業化

看護の知恵やアイデアを活かし、社会における看護の新たな可能性を示す

### 3. 信じて言い続ける

あとはこれらを言い続けること。現場を信じて言い続け、実際にサポートすること。動こうとする現場を奨励すること。それが新たな成功体験につなげること。やりきることである。